

2010/07/25

UCEENET SCHOOL OF INDUSTRY 感想文

東京工業大学 森重皓太

海の日に uceenet 主催する UCEENET SCHOOL OF INDUSTRY (USI)に参加しました。全体的にとっても贅沢な気がしました。理由は3つあります。1つ目は学生が全員で15人程度しかいなかった事です。2つ目は普通のいわゆる就活セミナーは就活の方法論が話の中心となるものと思われませんが、今回のUSIの話の中心は方法論ではなく、就活のそもそも論、つまり、就活の大元の意味や目的など、我々学生が見失いがちな話であった事です。3つ目はQ&Aの時間に一人の学生の質問に対し、先輩方全員の意見が頂けたからです。

このUSIが終わった後に真っ先に「大学1年生の時に聞きたかった!」と思いました。各先輩方の御講義に共通して言える事は、自分を知るにも、自分が成長するにも、様々な人と出会う必要がある、という事でした。この出会いの重要性をもっと早く知っていたら、自ら、もっと積極的に出会うを求めていたであろうからです。私は今まで出会いに関しては楽な方へと流されていた気がします。バイト、部活、学部の最低限の仲間たちとだけ付き合っていました。どうしてもっと仲間を増やさなかったのだろうか、と今ではとても不思議に思います。しかし、誰もがそうとは思いませんが、一般的に人は何も意識しなければ楽な方向に流されると思います。気の合う仲間とだけつるむことは、刺激こそ少ないものの、ストレスも少なくとても楽な事です。相手の考えも言葉が少なくても何となく分かります。気を遣ったり、察する必要はほとんどありません。一方、もしもっと出会うを広げる事で自分自身が大きく成長できる事が分かっていたらその道を歩んでいたことでしょう。たとえそれがつらく、険しい道であったとしてもです。

次に先輩方の各御講義で印象に残った事を述べたいと思います。日本たばこ産業株式会社の伊藤さんの御講義の中で、尊敬できる先輩に出会うと急成長するというお話がありました。尊敬できる先輩からは良い部分をどんどん吸収できますし、さらなる高みへと導いてくれる存在であると私は思っていましたのでこのお話は大変納得できました。その後、出会いは人を成長させるというお話がありました。「まずは会いに行こう」というお言葉にはとても勇気づけられました。今のままの自分で会いにいてもいいんだ、というある種の承認にも似た感じを受けました。

三菱化学株式会社の田中さんの御講義の最後の方で「茹でガエル」という衝撃的なお言葉を聞きました。「茹でガエル」とはぬるま湯に浸かり続けると幸せなので何もしないで死んでしまうというカエルを指して言った言葉です。私は「茹でガエル」にだけはなりたくない!と思いました。しかし、大学に入ってから私は受験で成功し安心しきっていた一種の「茹でガエル」でした。ところで、本プログラムに参加されていた学生の方の一人に自分の哲学は?という問いに対して楽な道と辛い道があった場合迷わず辛い道を選ぶと即答された方がいらっしゃいましたが、私はそうすればよかったのです!しかし、楽な道

を選び続けました。いえ、辛い道という選択肢が見えていなかったのかも知れません。それ故、「茹でガエル」という言葉には殊更反応してしまったのかも知れません。

鳥居薬品株式会社の籠橋さんから間違った就活をしない為のより具体的なお話を頂きました。就活では「社会を知る」事、「企業を知る」事、「自分を知る」事が重要だそうですが、特に「自分を知る」事が大変難しいという事を伺いました。それ以前に自分を知らない事に気づかない人がとても多いというお話もありました。たとえば、面接で「自分の強みは？」と聞かれ、分からないときに「分かりません」と言える学生は5、6人に1人程度だそうです。それ以外はと言うかという、用意してきた話を無理やり話し、強みかどうか分からない強みを強みと言って話すそうです。これは聞いていてとても心苦しい気持ちでした。と言いますのは、ついこの前とあるインターンシップの面接に行ってきたのですが、その時の自分の受け答えしている姿と重なったからです。私はインターンシップの前日に恐らく翌日の面接で聞かれるであろう長所や短所を思いつくままにリストアップし、それぞれにそう思う理由に相当するエピソードを適当に付けておきました。当日、案の定自分の長所が聞かれたので用意していた長所とそれにまつわるエピソードを述べました。しかし、用意していたものを口に出したのは良いものの、説明している間にだんだん言っている言葉が全然自分の言葉ではない気がして、しまいには嘘をついている感覚にさえ襲われました。恐らく自分が心から思っている言葉ではないのにそのように見せかけてしゃべったからでしょう。この気持ちは面接官の方に伝わったはずです。この時、もし自分が「これが本当に自分の強さかどうかは分かりません」と言えていたら印象は変わっていたのではないかと改めて強くそう思います。

住友ベークライト株式会社の勝村さんに博士課程と就職活動にまつわるお話しをして頂きましたが、中でも印象に残ったお話しは御講義の終盤に話された社会人基礎力に主体性、行動力が含まれていたことです。私は主体性、行動力については日々心がけているつもりです。主体性は私が考えるには自分で感情的や反応的にならず自ら考えて行動する事であると考えます。行動力とは勇気をもってやろうとしている事を行動に移す力であると考えます。

Q&Aの時間では学生の切実な質問に対し、いともたやすく自らの哲学に照らし合わせ、信念をもって返答される先輩方はとても尊敬でき、今日という出会いもまた大変貴重なものであると思えました。今後の先輩訪問では自分を再発見できるといいなと思いました。